

# 春風秋霜 10月号

令和4年10月25日  
島田市教育委員会だより  
教育長 山中 史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

## 1 夢育・地育で子どもの夢を育もう

先日、新聞を読んでいたら、相賀小学校と五和小学校の記事が目にとまりました。相賀小学校の記事は、「島田市出身のフリーアナウンサー・片川乃里子さんが17日、同市の相賀小で講演した。アナウンサーの仕事について紹介したり、仕事をする上で大切にしている心構えなどを伝えたりした。片川さんは生放送での言い間違いなど、これまで経験した苦い思い出を振り返り、『あまり落ち込まずに何事も前向きに取り組むことが大切』と強調した。子どもたちには、あいさつをすることや、自分の好きなことを見つけるなど、将来に向けて取り組んでほしいポイントを挙げた。アナウンサーを目指す児童には、『多くの人とお話しして、たくさんの方に興味をもってほしい。』等と呼びかけた。講演はキャリア教育の一環。同校の4～6年生15人が受講した。」(出展 10月19日 静岡新聞)

子どもたちがあこがれるアナウンサーの方から、アドバイスをもらったり、心掛けるポイントなどを教えていただいたりすることで、具体的な姿が見えてきます。

また、五和小学校では、同じ日にバレーボール元日本代表の大山加奈さんに、特別授業を行っていただいたという記事が載っていました。その記事を紹介したいと思います。「大山さんは壁にぶつかった時の対処法など、現役時代の経験から伝えたいメッセージを来春から中学校生活を迎える6年生65人に送った。大山さんは、小中高全ての学年で全国制覇を成し遂げ、高校生在学中に日本代表に初選出された。アテネ五輪直前の強化合宿では、けがやプレッシャーで追い込まれ、合宿所から逃げ出そうと考えたが、両親や学校の先生に相談したことで前向きになれたという。大山さんは、『弱さや苦しみを共有することは恥ずかしいことじゃない。壁にぶつかった時は、周りの人に頼ってほしい』などと呼びかけた。実技指導も行われ、大山さんは、アタックやレシーブのこつなどを子どもたちに教えた。」(出展 10月18日 静岡新聞)

オリンピックに出場した選手から直接話を聞くことによって、具体的な苦労や努力の姿が見えてくると思います。

相賀小学校と五和小学校の子どもたちは、片川さんと大山さんの講演を通して、アナウンサーという仕事や、オリンピックに出場するための努力や苦労だけでなく、バレーボールの楽しさを教えてもらうことができたと思います。このような企画をしてくれた相賀小学校と五和小学校の先生方に感謝いたします。きっとこの時間が、将来につながっていく何かのきっかけになるかもしれません。小学生の時に心を寄せた夢や目標は、大人になるまでつながることが多いように思います。

島田市では、教育施策の一つとして、「夢育・地育の推進」を進めています。私がいつも話をする「夢から始まる」もその一つだと思いますが、子どもたちが夢を抱いたり、目標を設定するときには自分の経験や見たり聞いたりした中に、夢や目標につながるものがないと、具体的なものが浮かんできません。

各学校で実践している「夢育・地育」の活動が、子どもたちの未来につながって

いくことを祈っています。

## 2 島田第二中学校の学校訪問で考えたこと

10月21日に、島田第二中学校に教育委員の皆さんと学校訪問に行きました。島田第二中学校では、ICT教育に熱心に取り組んでくれています。新聞等でよく書かれていますので、皆さんもご存じだと思いますが、GIGAスクール構想が令和元年から開始され、全校の児童・生徒一人に一台のコンピューター端末が配られ、島田市においては、プロジェクターとスクリーンが各教室に配備されました。また、自分の考えを端末に書き込むことによって、授業に参加している子どもたちは、お互いに友だちの意見を見ることができ、そのデータを使って意見交換をしたり、考えを共有したりすることもできるようになっています。

数学の時間には、自分の理解しやすい方法で、学習を進めることができるようになっています。授業中に受け身では、学習を進めることはできません。先生と相談しながら学習を進める生徒、教科書や問題集を使って学習を進める生徒、学習ソフトを使って学習を進める生徒、各人が自分のやり方で学習を進めていました。校長先生は、これからの社会を考えると、自分の意思をもたなければ何事もできないということを話していました。頼もしい子どもたちが、育っていることを感じました。

## 肘かけ椅子

# 「蓬莱橋」

図書館課課長 岩本申久

蓬莱橋は、小学校の遠足や仕事でも係わりのあった思い出深い橋です。全長は897.422m（幅2.7m）の木造橋で法律上は農道に分類され、施工は明治12年で今から143年前に架けられました。橋名は静岡藩主徳川家達が家来の激励に訪れたときに牧之原台地を宝の山を意味する蓬莱山に例えたことに由来するそうです。

川の氾濫により何度も流されたため、昭和40年に橋脚部だけはコンクリート製にする改造を受けたと言われていますが、私が子供のころに旧第三小学校校舎から台風により何度も流されている橋を見たことを覚えています。昔は橋の床には大きな穴が何カ所も空いていて、覗くと高所から川や河原の石などが見え迫力があり、そんな橋を自転車で肝試しとしてみんなで渡ったことが懐かしいです。

昔は観光客もあまり来ない橋でしたが、平成9年に「世界最長の木造歩道橋」としてギネス世界記録に認定や橋の全長の語呂合わせでヤクナシから縁起が良いとパワースポットとなり観光客が来るようになりました。平成15年にはLEDを設置し日没に緑色の光が橋の輪郭を浮かび上がらせ幻想的な空間を演出しましたが、最初は盗難事件が発生し、当時商工課だった私は、盗難防止のため午後9時～午前2時まで交代で橋の中央で座り見張っていました。こんな時間でも若者が渡って来ていたのは驚きでしたが、逆に暗闇の中で私達を見つけて声をあげる人もいて、早く帰るように声を掛けたことは今でも思い出します。月明かりのある日は、早い時間なら夜の蓬莱橋もいいかもしれません。ただし、案内所が閉まっていれば、通行料の大人100円、小学生以下10円を橋の入口にある箱に入れてくださいね。